

農作物技術情報 第5号 畜産

発行日 令和8年7月30日
発行 岩手県、岩手県農作物気象災害防止対策本部
編集 岩手県農林水産部農業普及技術課 農業革新支援担当（電話 0197-68-4435）

携帯電話用
二次元コード



「いわてアグリベンチャーネット」からご覧になれます
パソコン、携帯電話から「<https://www.pref.iwate.jp/agri/i-agri/>」

- ◆牧 草 収穫は、夏枯れを避けるため地際から 10cm 以上の刈り取り高さとしましょう。収穫・追肥は、高温・乾燥時を極力避け、曇天時に行いましょう。追肥は、可能であれば降雨の前後に行いましょう。草地更新・追播を行う場合は、計画的に作業しましょう。
- ◆飼料用とうもろこし 獣害対策として、電気柵を効果的に設置しましょう。高温が続くと、登熟が早まることが予想されますので、収穫の準備をすすめましょう。
- ◆大 家 畜 牛舎環境面や飼料給与面からの暑熱対策を継続しましょう。夜間も送風を続け、クールダウンさせましょう。

牧草

1 生育状況

2 番草は、7月中旬頃から収穫が盛期となっています。刈り遅れに注意して収穫をすすめます。6月の気温は平年並みからやや低い傾向であったため、暑熱の影響は少ない傾向です。

2 再生草の管理

寒地型牧草は、概ね平均気温 25℃以上で生育が止まり、30℃を超えると夏枯れします。刈取りや施肥は高温・乾燥時を避け、可能な限り降雨前後や曇天時に行います。

3 草地更新・追播

草地更新や追播をする場合は、8月下旬から9月中旬に播種となるよう、日程を逆算して耕起、碎土、整地作業を行います。作業工程は表1を参考に選定してください。

播種が早すぎると干ばつのため発芽した個体が死滅しますので、草が夜露に濡れる頃に播種します。播種が遅すぎると越冬できないか翌春に出穂しないなど、生育が期待できないため、積雪前に10葉期（草丈 10cm 以上、分けつ 3 本以上）まで生育できる時期に播種を終えます。

土壌改良の必要がなく、雑草が少ない場合は、牧草種子の追播も増収効果が期待できます。

土壌改良資材は、pH6.5 矯正量の石灰質資材と、可給態リン酸が 5-10mg/100g となるリン酸質資材を施用します（施用量は土壌分析値から算出します。）。

播種時の施肥量の標準は、窒素 7~10、リン酸 10~15、カリ 4~7kg/10a です。牧草の播種量は表2を参考にします。

表1 草地更新・追播の作業工程

区分	主な作業機等	ポイント	7月			8月			9月
			上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬
完全更新	 	①二番草収穫後、除草剤を散布し、プラウで耕起したのち、ディスクやロータリーハローで播種床を作り播種します ②堆肥や石灰などの土壌改良材を施用します ③種子の発芽ムラや枯死を避けるため、播種後、鎮圧を行います		二番草収穫		除草剤散布	堆肥・土改材 耕起 碎土 整地		播種 施肥 鎮圧
完全更新	除草剤播種同日処理  	①一番草収穫後、予め播種床をつくり、雑草を十分生育(30～40日)させ、播種日に非選択性除草剤を散布します。除草剤散布、播種、鎮圧作業は1～2日で完了させます ②ギンギンなど永年生雑草が繁茂した草地にも有効です	除草剤散布	堆肥・土改材 耕起 碎土 整地			この期間に雑草が生育	除草剤散布	播種 施肥 鎮圧
簡易更新	表層攪拌  	①二番草収穫後、除草剤を散布し、ロータリーやディスクハローで播種床を作り、播種します ②堆肥や石灰などの土壌改良材を施用します ③種子の発芽ムラや枯死を避けるため、播種後、鎮圧を行います		二番草収穫		除草剤散布	堆肥・土改材 碎土 整地		播種 施肥 鎮圧
簡易更新	作溝式  追播 穿孔式 	①二番草収穫後、牧草が短いうちに溝を切るまたは地表に穴を付けて播種します ②作溝式播種機の場合、鎮圧は不要ですが、土壌が乾燥する場合、軽く鎮圧します ③牧草のルートマットが厚い場合は、簡易更新か完全更新を選択します		二番草収穫				播種 鎮圧	

表2 牧草の播種基準（採草）

区分	草種	播種量 (kg/ha)	備考
オーチャードグラス主体草地	オーチャードグラス	20	①乾草利用が主体の場合は、乾燥し難いペレニアルライグラスを削除する。 ②アカクローバは、永続性に乏しく乾燥し難いことから、高タンパクな飼料の確保の場合などを除き、適宜削除する。
	ペレニアルライグラス	4	
	シロクローバ(大葉型)	2	
	計	26	
チモシー主体草地	チモシー	15	
	ペレニアルライグラス	4	
	シロクローバ(中葉型)	2	
	アカクローバ	3	
	計	24	

飼料用とうもろこし

1 生育状況

草丈は平年並みに推移していますが、出穂が5～10日早くなっています。高温傾向が続くと、登熟が早まることが予想されますので、機械のメンテナンスや資材の購入等、収穫準備を早めに行います。

2 野生鳥獣被害の確認と電気柵の設置

出穂後は野生獣（クマ・イノシシ）のほ場への侵入が増えます。圃場周辺の草刈りを実施して見通しを良くします。電気柵を設置している場合は、電気柵を目視できる状態にします（写真1）。これまで被害の無かったほ場でも、シカやイノシシの食害がみられています（写真2）。被害が発生していないか、定期的に見回ります。

電気柵のワイヤーの高さは、対象となる野生獣に合わせて設置します。クマ・イノシシの場合は、地際から20cm、40cm、70cmです（写真3）。シカに対しては、120cmを追加して4段張りとします。ワイヤーは、簡易緊張具を使用して、たるみを無くしピンと張ります（写真4）。漏電していないか、定期的を確認し、電圧は5,000ボルト以上を確保します（写真5）。



写真1 圃場周辺の草刈り



写真2 イノシシによる食害を受けた飼料用とうもろこし



写真3 クマ・イノシシ用の電気柵



写真4 簡易緊張具の使用例



写真5 電圧は5,000ボルト以上を確保

大家畜

牛舎環境面と飼料給与面からの暑熱対策を徹底し、分娩前後の代謝病や繁殖障害の予防、生産性の低下を最小に抑えます。

1 暑熱対策

(1) 牛舎周辺の遮熱、遮光

牛舎内に熱を入れない対策を行います。散水する場合(*)は、気化熱による熱の蒸散を目的とし、湿度を上昇させないように、散水量に注意します。

- ☐ 屋根表面への遮熱塗料やドロマイト石灰の塗布
- ☐ 屋根表面への散水*
- ☐ 屋根表面への寒冷紗の設置
- ☐ 屋根裏へのウレタン断熱材の吹き付け、遮熱シートの設置
- ☐ 牛舎の軒下や窓への寒冷紗の設置
- ☐ 牛舎周辺への散水*

(2) 牛舎内の送風と換気

牛体周辺に風速 2 m/秒以上となるように送風を行い、体感温度を下げます（写真 6）。牛体に直接送風する場合は、頸から肩に風を当てます（写真 7）。日中の気温が 25℃を超えた日は、夜間も積極的に送風します。

同じ気温でも、湿度が高いと T H I（温湿度指数）が上昇し体感温度が上がるので、散水等、牛舎内外で水を使用する場合は、適切に換気して湿度が上がらないように管理します。

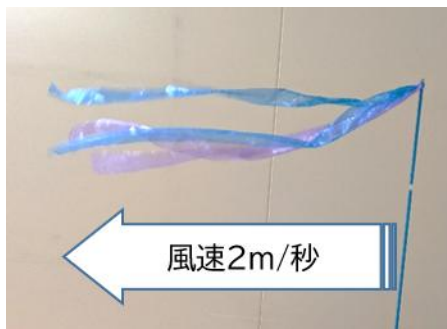


写真 6 風速 2 m は、ナイロン紐が横になびく程度



写真 7 牛の首元に送風する

(3) 給水施設の整備と給水量の確保

気温の上昇に伴い飲水量が増えるので、十分な飲水量を確保します。水槽やウォーターカップは毎日清掃します。

(4) 飼料給与

粗飼料は、ルーメンに滞留する時間が長いほど発酵熱が増加するので、消化性の良い粗飼料を給与します。気温が高い時間帯を避け、涼しい時間帯（早朝・夕方から夜間）に多く採食できるよう、給餌のタイミングを工夫します。

飼料の採食量と反芻が減るとルーメンへの唾液の流入量が減少します。また、呼吸数の増加に伴い唾液中の重炭酸イオンの含量が減少します。このため重曹入りの固形塩、重曹入りのペレットの給与、配合飼料への重曹の添加（目安 100～200g/日・頭）などを対策します。（低カルシウム血症、乳房浮腫を誘発する恐れがあるので、乾乳牛には重曹給与は行いません。）

発汗等によりカルシウム、リン、マグネシウムの要求量も増加するので、乾乳後期牛を除き、通常の 1～2 割増給します。

暑熱時の体温上昇で酸化ストレスが増加するとビタミン類の消耗も増えるため、ビタミン E やセレンなどの抗酸化添加剤の増給も検討します。

ツキノワグマの出没に関する警報

県は、ツキノワグマの出没に関する一層の注意を促し、更なる被害の防止を図るため、県内全域に「ツキノワグマの出没に関する警報」を発表します。県民の皆さんにはツキノワグマの被害を防止するため、一層の注意をお願いします。

<https://www.pref.iwate.jp/kurashikankyoushizen/yasei/1049881/1043255.html>

1 クマに遭遇しないために

- ・ 事前に入山地域の出没情報や被害情報を確認する。
- ・ 音の鳴るグッズを常に鳴らして存在をアピール

2 クマを寄せ付けない

- ・ 食べ残し等、エサになるものを放置しない
- ・ 農地周辺のやぶを刈り払い、見通しの良い環境を整備する。

3 出会ったときの行動

- ・ 背を向けて走って逃げない
- ・ 目を離さず静かにゆっくり後ずさる

4 襲われそうになったら...

- ・ クマが攻撃してきたら両腕で顔や頭をカバーし地面に伏せて防御する

次号は8月27日（木）発行の予定です。気象や作物の生育状況により号外を発行することがあります。

熱中症防止

- 日中の気温の高い時間帯を外して作業を行うとともに、休憩をこまめにとり、作業時間を短くする等作業時間の工夫を行うこと。水分をこまめに摂取し、汗で失われた水分を十分に補給すること。気温が著しく高くなりやすいハウス等の施設内での作業中については、特に注意。
- 帽子の着用や、汗を発散しやすい服装をすること。作業場所には日よけを設ける等できるだけ日陰で作業するように努めること。
- 暑い環境で体調不良の症状がみられたら、すぐに作業を中断するとともに、涼しい環境へ避難し、水分や塩分を補給すること。意識がない場合や自力で水が飲めない場合、応急処置を行っても良くならない場合は、直ちに病院で手当を受けること。

**6月1日～8月31日は
農薬危害防止運動期間です**

- 近隣住民・周辺環境に配慮しましょう
- 農薬散布準備、作業中・後の事故に注意しましょう
- 農薬の保管・管理は適切にしましょう

農業普及技術課農業革新支援担当は、農業改良普及センターを通じて農業者に対する支援活動を展開しています。